日本臨床外科学会　国内外科研修報告

兵庫医科大学炎症性腸疾患外科での研修を終えて

福島県立医科大学会津医療センター消化器外科
鈴木　博也

このたび，日本臨床外科学会国内研修プログラムに応募し，2025年９月８日から９月19日までの２週間，兵庫医科大学炎症性腸疾患外科にて研修を受けさせていただきました．

まず初めに，このような貴重な機会をいただきました日本臨床外科学会会長の万代恭嗣先生，国内外科研修委員会委員長の高山忠利先生，そして私を推薦してくださいました当科教授・福島支部長の河野浩二先生に，心より御礼申し上げます．また，研修をご承諾くださり，温かくご指導いただきました池内浩基教授をはじめ，兵庫医科大学炎症性腸疾患外科のスタッフの皆様に深く感謝申し上げます．

私は医師８年目となりますが，卒業以来，福島県内で研修・勤務を続けてきたため，他施設での診療や手術技術に触れ，より広い視野と知識を得たいと考え，本研修を希望いたしました．福島県立医科大学でも2025年４月より炎症性腸疾患センターが開設され診療が始まりましたが，症例数はまだ多くなく，自身の経験も十分とは言えず，特に炎症性腸疾患に対しては苦手意識があることも理由の一つです．炎症性腸疾患は患者数の増加が続いており，高度な専門的知識と技術が求められる分野です．そのため，国内有数の症例数を誇る兵庫医科大学にて，洗練された診療・手術技術を学ばせていただきたいと思い，研修を希望いたしました．

研修中は手術見学，病棟回診，外来見学，処置見学，カンファレンスへの参加など，幅広い内容に取り組ませていただきました．初日は緊張しておりましたが，若手医局員の方も多く医局全体が活気に満ちており，教授を含めたスタッフの皆様が和やかで，すぐに打ち解けることができました．一方で，手術が始まると場の空気は一変し，緊張感に包まれた中での真剣なやり取りに圧倒されました．

この２週間で，計11件の手術に参加させていただきました．潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘術・回腸嚢肛門吻合，Crohn病の狭窄・瘻孔・膿瘍に対する狭窄形成術や腸管切除術，さらに痔瘻に対するシートンドレナージなど，典型的な症例から，肛門～回腸嚢に発生した癌の摘出，残存直腸の摘出などの非典型的症例まで，非常に多様な症例を経験することができました．

特に印象に残ったのは，回腸嚢作成における工夫，吻合径確保のための手縫い腸管吻合（斜めのAlbert-Lembert法），一時的人工肛門作成時の留意点，術後栄養の内容や開始時期など，実践的かつ細部にわたるこだわりでした．また，普段はあまり経験のない会陰操作を助手として間近で見学できたことも，貴重な学びとなりました．

さらに，手術・診療に加えて教育にも力を入れておられ，学生・若手医師・看護師向けの講義ビデオや手術解説動画などを通して，体系的に学ぶ機会をいただきました．非常に勉強になりました．

また，近隣だけでなく中部地方や四国地方など遠方からも多くの患者さんが受診しており，兵庫医科大学が提供する高品質な医療が，広く信頼されていることを実感しました．

研修期間中は，スタッフの皆様に大変親切にしていただきました．歓迎会も催していただき，勤務時間外も含めて非常に充実した２週間を過ごすことができました．

２週間という短い期間ではありましたが，非常に濃密で有意義な研修となりました．他施設で専門的な治療を見学することで多くの気づきがあり，自身の診療に対する考え方にも大きな変化がありました．本研修で得られた経験を，今後の福島県における炎症性腸疾患診療にしっかりと活かしていきたいと考

えております.

最後に，多忙な業務の中，２週間という長期の不在をお許しくださった福島県立医科大学会津医療センター消化器外科の坂本　渉教授ならびに消化器外科の皆様に，この場をお借りして深く御礼申し上げます.

（池内教授、スタッフの方々との懇親会）